

# 自然共生サイト「ホトケドジョウのビオトープと雑木林」が OECM 国際データベースに登録されました。

サイト名称：「ホトケドジョウのビオトープと雑木林」

Biotope of Loach and coppice

申請者：(学)桐光学園中学高等学校

所在地：川崎市麻生区栗木



2024年8月22日(木) 自然共生サイトとして認定を受けている 桐光学園中学高等学校の「ホトケドジョウのビオトープと雑木林(Biotope of Loach and coppice)」が、OECM 国際データベースに登録されました。

桐光学園では、2004年より地下水をくみ上げた池と川からなるビオトープで、ホトケドジョウ(絶滅危惧種)の保護と繁殖を行っています。

また、敷地内の雑木林では、たくさんの貴重な植物などの保護を1990年より続けています。

OECM (Other Effective area-based Conservation Measures) は、国連環境計画世界自然保護モニタリングセンター (UNEP-WCMC) が、政府、非政府組織、学界、産業界の協力を得て管理しています。

環境省発表

[https://www.env.go.jp/press/press\\_03264.html](https://www.env.go.jp/press/press_03264.html)

OECM JAPAN

<https://www.protectedplanet.net/country/JPN>

OECM 桐光学園

[https://www.protectedplanet.net/en/search?search\\_term=Biotope%20of%20Loach%20and%20coppice](https://www.protectedplanet.net/en/search?search_term=Biotope%20of%20Loach%20and%20coppice)

## ホトケドジョウのビオトープ

2004 年学園の北側に作られた、絶滅危惧種ホトケドジョウの保護繁殖の為のビオトープです。多摩丘陵の生息地の谷戸や山の細流をイメージした小川と池からなるビオトープは、地下水をくみ上げ、冷水域の環境を作り出しています。学園の北側にかつてあった大森谷戸のホトケドジョウの生息域を再び蘇らせたものです。毎年、多くの稚魚が孵化し、たくさんの成魚を観察することができます。



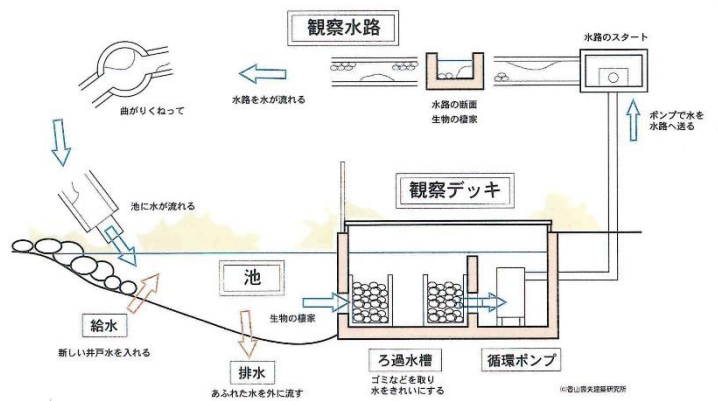
2004 年 3 月 ビオトープ完成



2022 年 7 月 ビオトープ掃除風景



毎年多くの稚魚が生まれています。



ビオトープの循環システム

2024 年には、実験室の水槽で産卵・孵化に成功し、300 匹近い個体を生育させることに成功しました。

## 雑木林

学園の南・東側には、かつての多摩丘陵で見られた雑木林が現在も保存されています。他の地区ではほとんど見られなくなったいくつもの絶滅危惧種の多くを見ることのできる貴重な場所です。

学園のある川崎市麻生区栗木は、多摩丘陵の中のいくつかの谷戸が交差する複雑な地形の場所でした。雑木林は、ホトケドジョウが観察された谷戸（大森谷戸）の南側にあります。

現在の雑木林は、クヌギ・コナラの陽樹林からシラカシなどの陰樹林が混ざる混交林に変わりつつあります。ナラ枯れを起こす樹木も見られ、森の生態系の変化が心配されますが、幸いなことに森林内の貴重な植物は毎年増えつつあります。

江戸時代頃にこの地区で発見された最初の甘柿である禅寺丸柿は、栽培が盛んになり江戸東京野菜の1つになっています。現在では出荷されることはなくなりましたが、雑木林や谷戸の周りでは多くの柿の木が、秋になると小さな赤い実をたくさんつけています。学園内にも当時から生えている大きな柿の木が数本残されています。

雑木林にはコナラを食草とするゼフィルス類（ミズイロオナガシジミ、オオミドリシジミなど）が生育しています。哺乳類ではタヌキの他、ハクビシン、アライグマなどが、落ち葉の堆積地でカブトムシの幼虫を探す姿を度々見かけます。

その生態からほとんど姿を確認できない、ジムグリ（爬虫類ヘビ）も観察することができました。



雑木林



禅寺丸柿（敷地内テニスコート横）



タヌキ



ジムグリ